

肺がん CT 検診について

肺がん CT 検診では、胸部エックス線検査では検出されないような小さな肺癌が見つかり、治療することにより、肺癌による死亡を防ぐなど、生命予後に寄与する可能性があります。肺がん検診の CT 検査は X 線検査であり、放射線被ばくがありますが、低線量で行っており、通常診断用 CT 検査時の線量と比べて 10 分の 1 程度と少なくなっています。低線量肺がん CT 検診を受けたことによって、新たにがん発生したという報告は現在までのところありません。

とくにお勧めするのは、50 歳から 74 歳の喫煙されている方*です。これまでの研究でその有効性が証明されてきているところです。

（*喫煙指数 600 以上：例えば 1 日 20 本を 30 年間の喫煙、あるいは禁煙後 15 年以内）

これ以外の方々については、これまでの研究では生命予後に寄与するかどうかはわかりません。

40 歳未満の方には、有効性・被ばくの観点からあまりお勧めいたしません。

また、判定は重大な病変を見落とさないために慎重に行っており、過剰に診断してしまうこと等が少数ながら生じることがあります。

なお、肺がん CT 検診は肺癌の早期発見を目的としていますが、肺癌以外にも肺内外の病気が見つかることがあります。例えば肺気腫や肺結核、縦隔腫瘍あるいは大動脈瘤、副腎腫瘍などです。これらも早期治療へ至ることがある一方、偽陽性や検査に関わる精神的負担や費用がかかるなど不利益につながる可能性もあります。

公立昭和病院
予防健診センター
2023 年 11 月